



なりたい自分になる。そして...

Suma Press

SUMA GAKUEN Annual Schedule 2023

High School 須磨学園高等学校の行事レポート

Suma Press SUMA GAKUEN Annual Schedule 2023

2023年7月25日発行 発行/学校法人須磨学園 〒694-0009 神戸市東灘区板宿町3-15-14 TEL. 078-732-1968 FAX 078-732-6129



● 英語の正確さや発音、表現力などを競うレシテーション(英文暗唱)コンテスト。抑揚をつけ、聞き手に力強く訴えかけるスピーチが多く見られました。



レシテーションコンテスト



● 毎年3学期の始業式の後、1年の抱負や意気込みを書き初めました。生徒たちは心を落ち着かせて思い思いの字を書き、決意を新たにしました。



書き初め



● 笑顔と涙に包まれた最後のホームルーム。生徒・教員みんなで思い出を語り合いました。



● 各教科の優秀者上位9名に記念の表彰状が渡されました。



● 卒業生へ卒業証書が授与されました。卒業生の答辞では、友だち、教員、家族への感謝が述べられました。

卒業式

学校入試説明会・見学会のご案内

学校入試説明会・見学会

- 場所…本校・Zoomライブ配信
- 時間…第1回 10:00～・第2回 13:30～(要申込み)

第1回のみ
10/22㊥・10/29㊥・11/12㊥・11/25㊥
第1回・第2回
10/28㊥・11/3㊥(祝)・11/4㊥・12/2㊥

※ご来校の際はマスクの着用を推奨します。
 発熱していたり体調が思わしくない場合は、参加をご遠慮いたします。
 ※靴袋・上履き・スリッパ等をご持参ください。
 ※自家用車・バイクでの来校はできません。公共交通機関をご利用の上、お越しください。

説明会のご参加はお申し込みが必要です。
 詳しくは、ホームページをご確認ください。

URL: <https://www.suma.ac.jp>
 E-mail: admission@suma.ac.jp



SUMA GAKUEN

4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 始業式 ● 入学式 ● オリエンテーション合宿 (高校1年/淡路島:2泊3日) ● 広島平和学習 (高校3年/広島:日帰り) ● 前期生徒会選挙
5月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回定期考査 ● 避難訓練 ● 健康診断
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 合唱コンクール (高校1年) ● 文化祭 ● 第2回定期考査
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏期特別授業 ● 終業式 ● 海外短期留学 (高校1年希望者/イギリス、アメリカ、カナダ) ● グローバルスタディーズプログラム (高校1年希望者)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏期特別授業
9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 始業式 ● 第3回定期考査
10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 後期生徒会選挙 ● 体育祭 ● 研修旅行・首都探訪 (高校1年/古都:2泊3日) (高校2年/東京:4泊5日)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 芸術鑑賞会 ● 創立記念日(9日) ※昨年度は芸術鑑賞会に代わり、10月に創立100周年記念式典・シンポジウムを実施。 ● 第4回定期考査
12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 冬期特別授業 ● レシテーションコンテスト (高校1年) ● チャリティーコンサート ● 終業式
1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 始業式 ● 書き初め
2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校入試 ● 第5回定期考査 ● フェアウェルパーティー
3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業式 ● 春期特別授業 ● マラソン大会 (高校2年) ● 3.11 防災訓練 ● 終業式 ● イギリス短期留学 (高校1年希望者) ● グローバルスタディーズプログラム (高校1年希望者)

※各行事は変更の可能性があります。



■ 海外短期留学

新型コロナウイルス感染症の影響で延期になっていた海外短期留学。社会情勢を考慮しながら2022年度より随時実施しています。

カナダ短期留学	P04
イギリス短期留学	P05



■ 平和学習

3年生の春に広島を訪問します。現地を訪問する前に、被爆体験伝承者を本校にお招きし、講話をしていただきます。現地訪問は、よりリアルに戦争の悲惨さや平和の尊さを感じるものとなります。

広島平和学習	P06
--------	-------	-----



■ 国内研修旅行

高校1年で古都(飛鳥、奈良、京都、大阪)、高校2年で東京を訪問します。過去と現代の都を訪問することで、日本を深く学びます。東京研修旅行では、企業や大学を訪問することでキャリア形成にもつながります。

古都研修旅行	P07
東京研修旅行	P08



■ 校内行事

須磨学園では、生徒たちが主体的に行動し、他学年と協力して行われる行事が多数あります。毎年行事は工夫がなされ、新しい企画も生まれていきます。

入学式・オリエンテーション合宿	P09
文化祭	P10
体育祭	P11
創立100周年記念式典・シンポジウム	P12-13
レシテーションコンテスト・書き初め・卒業式	P14

カナダ短期留学



竹内 彩夏

他言語での意思疎通の難しさを楽しんだ

このカナダ留学は私にとって初めての海外だった。幼い頃から英会話が好きで、学校でネイティブの先生と話すなど実践を重ねてきたものの、現地で実際に話した経験はなかったので初めは緊張した。飛行機に乗る前、うまく話せるだろうか、発音や文法は間違っていないだろうか、失礼な表現をしないだろうか、など消極的な思考が頻りに頭をよぎっていた。日本から旅立った瞬間、二割の不安と八割の好奇心が混在していた。

カナダに着いてその割合は変わった。英語だらけの標識、明らかに日本人ではない顔、見たことない仕組みがある自動販売機、当たり前のことだが周りを見れば見るほど実感した。ここはもう日本ではない。その瞬間、八割の戸惑いと二割の高揚感に変わった。

UBCの寮に着いて大学生と話した時、一気に安心感に包まれた感じがした。わかる。理解できていない話していることが。それだけではなかった。大学生の優しさにも触れた。自分の未完成で拙い英語を理解しようとしてくれてるのが伝わってきて、それだけで嬉しかった。また大学生の親しみやすい性格も好きだった。

多くの知らなかった知識を得た。平日は午前授業、午後アクティビティ、英会話タイム。休みの日は観光やお買い物時間が多かった。どれも魅力的だった。カナダの歴史や地理、自己紹介から環境問題という大きな話題まで学んだ授業の時間では、毎回の課題に苦戦した。一例として、大学内にいる学生にインタビューをした。少し人見知りだった私には難易度の高い課題だったが、カナダの人は日本人とはベクトルの違った優しさがあった。話しかけると、何をしても即座に顔を上げて笑顔で話を聞いてくれた。とても安心したし、自信にもつながった。

グループ同士で競い合う楽しい活動を行った。アクティビティの時間では、大学生やグループメンバーと会話を重ねて協力し達成した時がとても楽しかった。その中でも特に楽しんで好きだったのは英会話タイムだった。英会話タイムでは話題が用意されていて話し合うものと完全なフリートークがあった。フリートークの時間に自分について話して自分のことを理解してもらおうと、グループメンバーや大学生の話を聞いて相手のことを知っていくことがとても楽しかった。英語という他言語のフィルターを通して伝える難しさも感じた。しかし、これはどういふ風に言うのだろうか、と悩むよりも先に何とか伝えよう

としている自分と、それを褒めてくれる大学生のおかげで、自分の英語に強い自信が芽生えた。それと同時に、未熟な自分の英会話力を伸ばそうという野心も出てきた。それがこの留学での大きな成長だと思う。伝わった時の達成感はもちろん、次はもっと多くの人と話したい、次はもっとうまく話したい、と次第に気持ちが昂り、英会話を純粋に楽しんでいるその瞬間が大好きだった。私は英会話タイム以外にも、移動中や食事中、自由時間にも積極的に話しかけて会話を楽しんだ。英語を通して、前よりも英会話が楽しく好きになっていくのを感じた。以上がカナダ留学を通して得た特別な経験だ。



約2週間、UBC(ブリティッシュコロンビア大学)で学びました。移動中、和気あいあいと会話するUBCの学生&生徒を発見!



スタンレーパークでのエコツアーに参加。雄大な自然を感じました。



授業の一環で大学に繰り出し、UBCの学生にインタビュー!



UBCでの授業最終日、修了証が一人ひとりに手渡されました。

イギリス短期留学



上遠野 颯斗

座学では得られないもの

私は初めに事前学習でイギリスの地域や文化、アメリカとの英語の違いを学んだ。正直なところ、そのような知識はあまり使わないだろうと思っていたのだが、実際にイギリスへ行ってみると、箱がTrash canではなくRubbish binであることや、日本でいう階がイギリスでは一階であるなど事前学習で学んだことはかなり実用的で役に立った。

コミュニケーション能力が一番上がったと思う。以前まで授業で手を挙げたこともなかったのだが、現地の授業では、積極的に手を挙げて自分の意見を進んで発表することができた。また、それと同時に相手の話していることの内容を理解する力も上がったと思う。初めのほうは理解できない部分も多かったのだが、自分の意見を英語で表現して会話したいという気持ちが強くなればなるほど、相手の話している内容も聞き取れるようになった。しかし、授業の中で分からない単語や先生の話の内容が理解できなかったときにCould you say it again?のよう

に聞き返せなかったところは反省点だ。

アクティビティや見学地で学んだことは様々ある。その中でも一番印象に残ったことは文化の違いだ。とにかく教会が多いと感じた。イギリスは日本と違い宗教を信仰している人が多い。そのため、教会は文化財でありながら祈りを捧げる場所でもあるのだ。だから、観光客が大勢いる中その教会に来て祈りを捧げている人を見たときは衝撃を受けたが、これが文化の違いなのだと感じた。そのほかにも、日本とは様式の異なる城であったり、何気ないイギリスの道路など、ふとしたところに

様々な日本とイギリスの文化の違いが見られた。ホームステイ先の生活ではホストファミリーとその目行った場所について次はどこへ行くのかを話したり、自分から積極的に声をかけて写真を撮ってもらったり、Diaryを書いた後確認してもらったりして、たくさん話せたので良い経験になった。

今回の短期留学では参考書を読んだり、リスニング音源を聞いて勉強するものとは違い、同時に英文を読み取る力や相手の会話を聞き自分の意見を述べるなど座学で身につけることのできないような英語の能力を身につけた。

つけられたので、とても有意義な時間となった。また、文化の違いなどは学校の勉強ではあまり学ぶことができないものだが、社会に出たときに必要となってくる知識として勉強できたのも良かった。



ケンブリッジ大学のキャンパスツアー!ケンブリッジ大学の学生がガイドしてくれました。



ケンブリッジ大学付属のフィッツウィリアム美術館も訪問。



ホームステイでは、現地の生活をリアルに経験しました。



ウィンボールの歴史ある邸宅を見学しました。現地ガイドに話を聞き、知識を深める生徒も!



授業は英語オンリーで展開。環境問題について学んだり英語で人権をテーマに議論したりしました。最終日、修了証を手に撮影!





角田 幸司

展示を見て感じたこと

先日終わりを迎えた一連の平和学習では実にたくさんのご縁を学んだ。その中で、広島平和記念資料館を訪れた際に見た三輪車、鉄かぶとという展示が最も印象に残っている。

この展示は当時三歳十一カ月だった鏡谷伸一ちゃんが原爆が落ちた時に乗っていた三輪車と、亡くなった伸一ちゃんを埋葬する時にかぶせて一緒に埋めた鉄かぶとである。

この伸一ちゃんは三輪車で遊んでいる時に被爆。全身に大げや

大火傷を負い、「水、水……とうめきながら、その晩に亡くなったぞうだ。伸一ちゃんには七歳の姉の昭子さんと一歳の妹の洋子ちゃんがいいたが、いずれも倒れた家の下敷きになって亡くなったという。

また、被爆してから四十年後に遺骨を墓所に移そうとして掘り起こすと、鉄かぶとの中にはまた伸一ちゃんの丸い頭の骨が残っていたぞうだ。展示されている三輪車と鉄かぶとは金属の色が変わっていて、原爆が生み出した熱エネルギーの大きさを物語っているようだった。

私は、小学生の頃から原爆や戦争についてよく調べていたので、当然この展示されている三輪車には何度も見覚えがあった。そんな

私の印象に残る程に本物の展示には色々な感情が混じっているのだと感じた。

英語の事前学習で知ったことが、伸一ちゃんは三輪車が欲しいと言っていて、ある日おじさんがプレゼントした時ほどとてもうれしかったぞうだ。原爆が投下された日の朝も欲しかった三輪車を手に入れたのがうれしくて朝早くから乗りまわしていたのだと思う。そんな子が、その日の晩には苦しみがもう亡くなったことを考える、とても耐えられるようにならなければならない。

今回の一連の平和学習では、戦争の悲惨さとともに戦争の悲しみを多く学んだように思う。それは多くの家族を失ったことであり、

多くの幸せを失ったことである。だからこそ、成人になる私たちは自分たちの未来を自分たちが動かしていこうという責任を自覚して、幸せな日常が奪われることがないように行動していかなければならないと思う。



● 事前学習として、被爆体験伝承者の方から当時の広島の様子を伺いました。生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていました。



● 広島平和記念資料館では、原爆の悲惨さを物語る展示を見学しました。恐ろしい現実を見て絶句する生徒たち。



● 爆心地近くの学校の一つ、袋町小学校平和資料館には多くの班が訪問。平和の尊さについて改めて考えました。



● 講話をしてくださった被爆体験伝承者の方と現地で再会し、記念撮影しました。



● 広島平和記念公園の慰霊碑前で黙とうを捧げ、平和を誓いました。

古都研修旅行



福田 琴子

古の世界を学ぶ

3日間にかけて行われた奈良・京都・大阪の古都研修。多くの寺院や神社、博物館などを訪れ、古の日本に触れた。

1日目は、東大寺や平城宮跡などに行き、飛鳥散策を行った。東大寺にはたくさん可愛らしい鹿がいた。鹿に癒やされながら歩く教科書でも有名な金剛力士像が南大門で出迎えた。想像していたよりも何倍も大きく、険しい表情や立ち姿には迫力があつた。金剛力士像は旅の中でも特に印象に残っているへらへら美しく作られて

いて、職人の技を感じた。さらに奥にある東大寺の大仏様は15mほどの大きさで昔の人が本当作ったとは思えない大きさだった。自然災害が続くなど苦しい状況の中で必死に何とかしたいという思いから生まれた大仏は、多くの人の大変な働きがあったからできたのだと考えると、ただ大きいだけではない思いの深さも感じ取れた。

2日目には、まず世界最古の木造建築である法隆寺を訪れた。柱に龍が巻き付いているような彫刻が施されていた。古くから現代まで時間を経っても残っている建築物の強さには驚いた。法隆寺大蔵院では聖徳太子の2歳から大人までの像があった。7歳のときにはすでに大人びていて凛々しい姿で

あったことが印象に残っている。当時履かれていた靴は木でできており、固くとても歩くのに不便そうだった。

京都では班別行動を行った。ここでは古都に触れるだけでなく、それ以外にもチームのまとまりの大切さを学んだ。初めての場所で行うにあたり不安を抱えながらも、あったが、京都の暮らしぶりによって迷うこともなく予定通りに行程を終えることができた。京都文化博物館、建仁寺、清水寺を訪れたが一番の思い出は建仁寺だ。無数のふすまに描かれた風景・人・龍の水墨画や、庭園が目につき付いている。庭園はどれも広く枯山水が美しかった。動きのない世界に模様を作り、流れを生み出

す日本の昔の人の考えに感動した。たくさん歩いたため足は筋肉痛になったが、自分たちで一から計画し、学びを得た京都班別行動はとても有意義な時間だった。

3日目には三十三間堂を訪れた。この場所は以前来たことがあり、初めてではなかったが、また来て観音様の雰囲気圧倒された。1000体近くというのは想像するよりも多く、またどれもが細部までこだわって作られていた。手に注目して見ると二つひとつ手にもっているものが違い、小さかった。何周もして詳しく見ることができ、様々な発見を得ることができた。

今からは考えられない古の時代に触れ、日本の歴史の深さを感じた。考えていたよりも昔の人は賢く、正確な技をもっていたことを知った。どの場所でも驚いたのは建築の力だ。海外とのつながりによって得た技術と大勢の人の働きによってできたと考えた。また、集団行動という面でもよい時間になった。お互いに声を掛け合い、みんなで協力することができた3日間であった。



● 聖徳太子ゆかりの橘寺。有名な天井画は華やかで、制スマホ片手に必死に「映え写真」を撮影中！



● 難波宮跡で思いを馳せた後は、近くの大阪歴史博物館へ向かいました。現在に続く大阪史を知ったK1(高1)生たち。



● 巨大な石室など、遺跡や寺社が多数点在する明日香村を歩き、過去の人々の暮らしを想像しました。



● 飛鳥資料館では、飛鳥地域で発掘された多数の出土品や資料から、色あせない古都の息吹を感じました。



● 班別で京都市内をまわりました。班で事前にスケジュールを練り、金閣寺、清水寺、伏見稲荷大社など、歴史ある名所を楽しみました！さまざまな時代にタイムスリップ！



中野 雄斗

過去から現在、そして未来へ
時の流れというものは、はかない。5日間もあつた研修旅行は気付けば最終日を迎えていた。1日1日、今日の出来事を記事(感想文)に書き起こしていくと、その日学んだことが次々と想起され、その日の記憶がより鮮明に脳に刻まれていく。その感覚が毎日楽しくて、今日は何について書くかと考える時間はとても充実していた。

僕の研修旅行は10月18日、家を出発するところから始まった。気が合いが入り、集合時間の



● 政治の中心である国会議事堂。テレビで見ている建物の中に入り、荘厳な雰囲気一同圧倒されました。



● ホテルでテーブルマナー研修を実施。学園長も駆けつけ、この旅の目的やテーブルマナー研修の意義を語りました。

1時間前に先生と交じって新神戸駅に着いたことは印象的である。新幹線が東京駅に近づくと、新幹線の窓から見える景色は次第に都会染みしてきた。東京駅に着くと、そこはまるで未来都市。通り過ぎる人の半数は海外の人、四方八方見渡す限り超高層ビルが立ち並んでいる。という光景は今までに経験したことがなかった。世界一の都市、東京の街を一望できる東京スカイツリーから東京の街並みを見渡すと、360度どこも平地で山道らしきものはまったく見当たらなかった。この風景を見て改めて、東京が世界最大の都市である理由について、考えを巡らせた。

東京はまた、政治の中心地



● Small Worldで、最先端テクノロジーが融合された動くミニチュアに興味津々のK2(高2)生。

もある。3日目に訪れた国会議事堂では参議院議場や中央広間、天皇がお休みになる御休所など、普段はなかなか見ることができない場所を見学することができ、日本の政治が身近に感じられた。2日目に企業訪問で訪れた国際協力銀行は政府系金融機関であり、世界に向けた日本企業のプロジェクトに融資する役割などを担っていることを知り、日本政府との深いつながりを実感するとともに、これらの訪問を通して、政治に親しむを持つようになった。



● 世界の諸問題や地球のこれからと向き合った、日本科学未来館。理想の未来を考えるためのヒントを得ました。

ニーシーは衛生管理がとてもよいと感じ、周囲を見渡してみると、ゴミを掃除している従業員さんの姿が目についた。僕ははっとした。笑顔で接する、気持ちのよい挨拶をする、表で見えるおもてなしの心だけでなく、裏でも僕たち来場者を不快にさせない動きをする、これにまさに真のホスピタリティーであり、ディズニーが最高のホスピタリティーの場とされる所以なのだ、と実感した。

他にも語りたことはたくさんあるが、残りの記憶は脳に保管することしよう。1年生の時に訪れた古都、京都と今回訪れた現代の都、東京。街並みは正反対といってもよいかもしれないが、いずれもかつて、ある



● 企業訪問でANA機体工場へ行った班も。整備士の働く姿を間近で見学するなど、普段は見られない裏側を自撃。

いは現在築いている都であることは同じであり、2つの都市の共通点も、研修旅行を通して見えてきた。また、実際に東京に行くと初めて実感したことも多くあった。この2年を過去、そして現代の日本を知り、体感する経験をした。今度は僕たちが次世代が、未来の日本を創造し、新たな歴史を構築する番である。

入学式



● 第102回入学式。期待に胸を膨らませ新入生代表が宣誓しました。近年、新型コロナウイルス感染症の影響で須磨学園オーケストラによる演奏のみだった学園歌披露。4年ぶりに合唱をまじえた美しい音色が体育館に響きました。

オリエンテーション合宿



● 入学後、初の校外学習です。集団行動訓練を行い、クラスの結束力を高めます！整列・行進の練習では、つま先、指先、目線までピンッと揃える生徒たち。



● 大塚国際美術館では陶板名画を鑑賞。世界中の作品に触れ、芸術的感性を磨きます。



● 集団行動の精度を上げるため、生徒主体で話し合い。



● 流行りのダンスを取り入れた青団の応援合戦!



● 赤い炎と勇ましい獣が見事なK1(高1)パネル!



● 運動部対抗リレーでは、各部が個性を放ちました。



● 「石橋を叩いて渡れ」は、度胸と絆が勝負の鍵。



● クラスメートとバトンを繋ぎ、勝ち取った1位!



● 綱引きでは、中高生が一致団結して戦いました。

僕自身は初めて応援団に参加してその上で団長を任せて正直戸惑いました。特にK3(高3)学年は受験を控えているため人数が少なくなること、練習時間をあまり取ることができないということなどを考えると本当に自分たちが満足できるものを作成できるのかと不安になりました。しかし、今まで部活などで応援団に参加できなかった人たちを中心に元気

いっぱいメンバーが率先して参加してくれて、ありがたかったです。集まったメンバーの個性がどれもとても強いのでまとまった動きを本当にできるのかと不安でしたが、20〜30分程度の練習でも汗だくになり声を枯らすまで努力する姿を見て、絶対に成功させてやろうと思えました。

高校生はじめての体育祭でパネルがう位になった時、最初は頭が真っ白になりました。しかし表彰状を手にとった瞬間一気に喜びがこみあげてきて、クラ

「感動」の頭文字の「3」のKにと3組の「3」をかけています。この目標を忘れずにクラス一丸となって全力でこの体育祭という大きな行事に取り組みたいと思います。

このパネルには3組全員の思いが込められていて、クラス全員の絆が深まるものとなりました。

2022年度の青団の団長を務めました平井です。まず、青団の皆様、僕を表彰台に立たせてくれてありがとうございます。



平井 頌

また、練習時間が少ない分複雑な動きを揃えるような振り付けではなく、シンプルな動きで完成度を高めることを重視し、今までにない違う方向での迫力を出せてよかったです。

果でしたが皆さんの記憶に残る演技をすることができ、悔いはないと言えは嘘なんです。本当に満足して演技を終えることができました。

最後に画面最前としてパネル全体にフラメを振りかけました。このフラメは当日、太陽の光によってキラキラ光ってくれることを期待して振りかけました。当日、実際にキラキラしてくれて嬉しかったです。

たので、描きました。2つ目は、3体の動物です。それぞれ狼と虎と熊で、3組のクラス投票によって決まりました。この3体が炎の中を突き進み、新たな道を切り開いていく姿は、3組のマイペースなことを生かして何事にも恐れず全力で取り組んでいく姿を表しています。

体育祭



● 個人研究「傑作展」の発表も模擬店でのおもてなしも全力で取り組み、楽しめました!



● 模擬店は、生徒たち自身で一から企画を練り、仲間と力を合わせて作り上げました。校内は笑顔で溢れ、生徒全員が輝いていました!



● クラスや学年関係なく盛り上がり、みんなハイテンション。会話も弾みます!



● 吹奏楽部と弦楽部が合同で「ラデツキー行進曲」を演奏。観客が手拍子をし、会場が一体となりました!



● 渡り廊下、武道館前のピロティなど、校内のあちこちが100周年を記念した特別仕様に。



● 2022年10月26日、創立100周年記念式典が神戸国際会館こくざいホールにて開催されました。100周年の節目にふさわしい特別なプログラムが用意された式典当日。



● 理事長の式辞では、これまでの100年への感謝と、これからの須磨学園の「to be myself...」が話されました。



● 学園長から飛び出したのは温水プール構想!?今後の須磨学園のワクワクするような展開が話されました。



石橋 結香

多くのことを感じた記念式典

私は、100周年記念式典に参加して、オーケストラはさすがだなと感じ、たくさんの方々のお話では感謝を感じました。

まず、オーケストラでは最初に越天楽を聞きました。越天楽は、鞆鼓や太鼓、鉦鼓、琵琶などの楽器で構成される雅楽ですが、それがオーケストラ仕様になっていました。そのおかげで、もともと単調に聞こえていたものが表情豊かな曲に変わってとても素敵だったです。そして、日本の楽器などが使われていない中あんなにも日本の古風な感じを表現できるのはすごいなと思いました。音楽の先生に聞いたお話ですが、越天楽がオーケストラで演奏されることは稀で、オーケストラ用に編曲された楽譜は、学園長先生が購入してくださったものだそうです。だからこそ、ほとんどの人が聞いたことのない貴重な演奏を鑑賞することができて、嬉しかったです。

歳の時に作られていて私とほとんど同じ年なのになんか素晴らしい曲を作曲できるなんてすごいなと思いました。これは、第4楽章まであって、第1楽章では生き生きとした雰囲気であるのに対して、第2楽章はとてもゆっくりした旋律で落ち着いた雰囲気に変わり、第3、4楽章では第1楽章と同じような雰囲気に戻りました。このように、一つ一つの章によって雰囲気を変えているのもすごいなと思いました。



● 100年の歴史にちなんだ曲が演奏されました。曲目の間には豪華ゲストのビデオメッセージも上映。



● レスビーズ作曲の「ローマの松」では、吹奏楽部も演奏に参加！勇壮な音色を響かせました。

創立100周年記念シンポジウム



福井 琥太郎

シンポジウムで受けた刺激

今回の記念フォーラムでは中野信子さんと和野信子さんをはじめとした非常に著名な方々のお話を聞くことができ、とても貴重な学びを得ることができました。

和野さんの話の中で自分の中で確かに二つ当りがあるものがあった。それは試行力についてのお話だった。「今の日本には試行力が足りず、やってみようという気があまりない」ということについて今の政治家などに例えてお話しされていたが、私は自分にも落ちて込んで考えてみた。確かに自分にも先に結論つけてしまいがちな試行力や行動力にかけている部分があることを知った。それで少し苦い思いをしたことも思いついた。逆に自分がやってみようと考えて企画し実行したときのことも思い出した。そのときは非常に楽しかった。達成感があったように思う。和野さんのお話は自分を振り返るきっかけとなり試行することの楽しさを思い出させてくれた。ときにはプレッシャーも必要だと思うが、そのためにもよりの経験を積んで考える

ことができればいいなと思う。ところが中野さんのお話もつながる部分があるように思う。私たちの今の脳は非常に不安を感じやすいようだ。やがて大人になるにつれて脳が成長して不安を打ち消すのに慣れるらしい。そこから私は今、法とマナーの範囲内なら何でもできる高校生の時間に不安に悩まして試行しないのはもったいないと思う。残り半分の高校生活でできることは限られているが、私は自分の高校生活を自分で考えてより充実し、中身の詰まったものにしてほしいと思う。

後半のパネルディスカッションでは様々な著名人の高校時代や若い頃のお話を聞くことができ、中には多くの苦悩があったことも知った。私は和野さんから時代や技術が加速度的に速く大きく変わっていることを教わったように思う。先ほどの話の続きにもなるが、そんな時代で不安に思いついて試行しないような暇な時間はないことを先端技術の発展の実例をもって知ることができた。

今回の記念シンポジウムで試行の大切さを大きく感じ、そのために迷う時間は少なく、時間を大切に使うべきではないかと思う。

今回の記念シンポジウムで試行の大切さを大きく感じ、そのために迷う時間は少なく、時間を大切に使うべきではないかと思う。



相江 美馨

改善と継続

今回の創立100周年記念シンポジウムで心に残ったことが二つあります。

一つ目は、和野信子さんが基調講演でお話されていた、やる気を出すための方法と勉強方法についてです。和野さんのお話は何も面白く、実践してみようと思うものはかりでしたが、その中でも「失敗したのは自分の頭が悪いからではなく、方法が良くなかっただけだ」という言葉は特に記憶に残っています。今までは、何か失敗した時、「自分の努力が足りていなかった」「自分の時間の使い方がうまくなかった」と自分を責めるような反省をしていました。しかし和野さんの考え方を聞き、自分を責めるのではなくて客観的にやり方を見直して変えていく方が、成功しやすい自分にとってとても苦しくないのだと思いました。

また、和野さんのやる気の出し方の話の中で実践してみようと思ったものがあります。それは成功体験を思い出して自分は頭が良いと思いつくことです。小学生の時を考えると、自分を疑わない方がモチベーションが上がるということも合っているのかもしれないと思いました。この二つは日常でも積極的に取り入れていきたいです。

二つ目は、パネルディスカッションで千住真理子さんがお話しされていた中学・高校時代についてです。二歳からヴァイオリンを始めている方は現在音楽家として活躍している方だと聞いていたのですが、幼少期から英才教育を受けられてきた「天才」と呼ばれるような方だと思っていました。しかし千住さんは、ただヴァイオリンが好きでゲームで遊ぶような感覚でヴァイオリンを弾き続けてプロになったとおっしゃっていました。何かの分野でプロになったり社会的な成功を収めたりするために必要なものは整った環境や英才教育ではなく、続けようとする気持ちだけなのだと、逆にこれだけ幼少ころから良い教育を受けていても続けようと思わなければどこかで終わってしまうのだ、という話を聞



● 第一部は和野信子先生、中野信子先生による基調講演を実施。第二部では岡田武史先生、落合陽一先生、千住真理子先生も加わり、理事長・学園長も交えてパネルディスカッションを行いました。